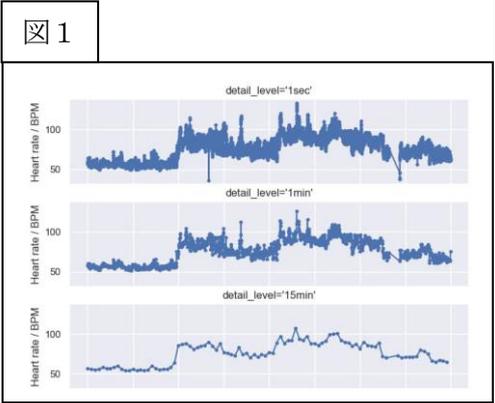


2023年度 独創的研究助成費 実績報告書

2024年 4月 2日

報告者	学科名	看護学科	職名	教授	氏名	喜多村真治
研究課題	看護におけるICT活用した患者の感情変化のデジタル化による人工知能的解析の検討					
研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担		
	代表	喜多村真治	看護学科・教授	医学	研究遂行	
研究組織	分担者					
研究実績の概要	<p>Society5.0に向けた新たな医療環境の変化が起きつつあり、医療の現場でも様々な AI/ICT 機器が導入されている。しかし、看護の分野では、対象は患者であり、患者の思いなど感情の変化などへ向き合うことが重要であるが、それらは形の無いものであり、数値化やデジタル化は困難であると考えられている。今回、脈拍や体温、酸素化、血圧などのバイタルサインの変化から、感情の変化を読み解き、看護に生かせるようなデジタル変換に関する研究である。具体的にウェアラブル機器を装着し、脈拍データなどを収集し、その時の行動などと比較し、バイタルデータの変動とヒトの行動・感情の変化の関連性を検討した。</p> <p>Pilot study として、研究者自身が植え荒ぶる危機を装着し、バイタルデータの収集を行った。Fitbit charge5 においては、脈拍の推移の収集を行ったが、毎分のデジタルデータの収集ではなく、平均のデータ算出になっており、詳細データの解析を行っている。また、他のプログラムとの比較のため、ガーミン社製の vivosmart 5 を購入し、比較を行っている。</p> <p>Fitbit においては、図 1 のように脈拍のデータ収集は可能であるが、細かなデジタルデータの抽出は通常の処理ではできないため、Fitbit においては、Web アプリのコーディングが必要で、エディタでコーディングを行い、動作確認を試みているところである。</p> <p>一方、ガーミン社製の vivosmart 5 では、運動に即して、図 2 のようなデータ収集が可能である。CSV ファイルで収集可能なため、アプリのコーディングが必要でない分、vivosmart 5 でのデータ収集が可能と考えている。</p>					



※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">図 2</div> <p>また、患者データの収集として、高梁中央病院の倫理委員会に、本研究について、申請を行い、本年1月に承認を得ている。</p> <p>(まとめ) 2023年度は、ウェアラブル機器のデータ収集についての検討を行った。また臨床の場でのデータ収集のため、協力病院での倫理委員会の承認を行った。</p> <div style="text-align: right;">  </div>
<p>成果資料目録</p>	<p>現在のところ、準備中のため、添付する資料はありません。</p>